

論語教室だより

『寺子屋・こども論語塾』世話人会

第 67 号

2016(平成28)年10月15日(土)

ざぜんざんまい ろんござんまい こんだんかい ぶじしゅうりょう
坐禅三昧・論語三昧・懇談会 無事終了

しょう ちゅう こう じゅくせい じゅぎょう おこな
小・中・高の塾生が授業を行う！

てらこや ろんごじゅく しゅさい につた おさむ
寺子屋・こども論語塾 主宰 新田 修

せんげつ てらこや ろんごじゅく ぜんこくてき めずら ざぜんざんまいおよ ろんご ざんまい じっし
先月の「寺子屋・こども論語塾」では、全国的にも珍しい坐禅三昧及び論語三昧を実施しました。

はじ こころ ふあん じゅくせい ほごしや みなさま きょうりよく いただ たの ゆうい ぎ
初めての試みですので不安もありましたが、塾生・保護者の皆様のご協力を頂いて楽しく有意義な
ひととき うみだす ことが できました。

ざぜんざんまい ほくだいじ おおなみそうりょ しどう さいしよ ざぜん いぎ はなし ざぜん ちよう
坐禅三昧では、北大寺の大波僧侶の指導のもと最初に坐禅の意義について話がありました。坐禅は、「調
しん しせい とどの ちようそく こきゅう お つ ちようしん こころ せいじゅく たも こころが むしん すわ むが
身(姿勢を整え)、調息(呼吸を落ち着け)、調心(心を静寂に保つ)を心掛け、ただ無心に坐る。つまり、無我
きょうち しんしん がいほう しゅうちゅうりよく やしな こうか
の境地になること。それによって、身心が開放され、集中力が養われる効果もある」という。その後、
まじ じっせんしどう おこな ま ぶんかん
ストレッチを交えての実践指導も行われ、アツという間の50分間でした。

ろんござんまい さいしょ ろんごあんきそとくたいかい おこな さいじい ながい えいれいこうだい だい
論語三昧では、最初に「論語暗記素読大会」を行い、5歳児の永井みずすさんは衛霊公第十五・第三十
しょう しょう みつたらのすけ くん きしだい だい しょう とも おお こえ かんべき あんき ひろう
章を、小2の光田虎之介君は季氏第十六・第四章を、共に大きな声で完璧な暗記を披露してくれました。
こんご ときおり と い おも
今後とも時折、取り入れていきたいと思っています。

つづ ろんご じゅぎょう めい じゅくせい かくじさくせい しりょう もと りっぱ こうぎ てんかい
続いての論語の授業では3名の塾生が各自作成した資料に基づいて立派な講義を展開しました。
いちばんて しょう ふかみりら りじんたい だい しょう とき じゅくせい こた
一番手は小3の深見理良さん。里仁第四・第一章を、時には塾生にあてて答えてもらったりしながら
へんか お つ じゅぎょうてんかい しょうがつこう ねんせい おも たいへんりっぱ こうぎ とく
の変化にとんだ落ち着いた授業展開は、小学校3年生とは思えない大変立派な講義でした。特にテキス
くふう おも
トがよく工夫されていて、とてもわかりやすかったと思います。

にばんて ちゅう かいどうはな けんもんだい だい しょう じ か ほんにんどくじ
二番手は中1の街道花さん。憲問第十四・第八章をホワイトボードにきれいな字で書きながら、本人独自
かいせつ まじ こうぎ き ひと こころ ひ つ ほんにん しりょう さいご か
の解説も交えたわかりやすい講義は聴いている人の心を惹き付けました。また、本人の資料の最後に書か
れてる「もう、これからは逃げません」と言う固い決意に私は胸熱くなる思いでした。

し こう ふじまりょう たくん いせいだい だい しょう ていねい じゅぎょうてんかい こうこうせい かんしん
締めは高1の藤島亮太君。為政第二・第十五章を丁寧な授業展開で、さすが高校生だと感心させられ
しょうく じぶんじしん かんぜん りかい はなし せつとくりよく しょうく わたし しゅっぱん
ました。章句を自分自身が完全に理解しての話には、説得力がありました。この章句は、私の出版した
ひ ひ あら またの ほん の か ないよう かなら
「日に日に新たに亦楽しからずや」の本にも載っているのですが、そこに書かれている内容に必ずしもと
らわれないで、自分なりの分析を解説した点、良かったと思います。

いん しょう も あじ じゅうぶん だ き すば じゅぎょう いまいちどはくしゅ おく
いずれにしても、三人三様の持ち味を十分に出し切った素晴らしい授業に今一度拍手を送りたいと
おも
思います。

しじん まな の せいじつ むね きざ おし きぼう かた
フランスの詩人・ルイアラゴンが、「学ぶとは、誠実を胸に刻むこと。教えるとは、ともに希望を語るこ
と。」と述べています。

おし せいの まな きちょう たいけん けつ むだ がっこうせいかつ なが
教えることは、学ぶことです。この貴重な体験を決して無駄にすることなく、これからの学校生活に、長い
じんせい い ねが
人生に、活かして欲しいと願わずにはられません。

さいご こんだんかい たの ちゅうせんかい おこな こんだんかい もよお こんご ていきてき おこな
最後に懇談会とお楽しみ抽選会を行いました。懇談会では、「このような催しは今後も定期的に行っ
てほしい」また「ドラマを見ているような感動を覚えた」更には「日本の将来は洋々たるものだ」等々の
かんそう だ こんご かんそう ふ ようぼう いけん と い もよお もさく
感想が出されました。今後は、これらの感想を踏まえ、要望や意見も取り入れた催しを模索していきたい



おも
と思っています。

ファイル名 : 論語教室だより第 6 7 号.docx
フォルダー : C:\Users\yohta\AppData\Local\Temp
テンプレート : C:\Users\yohta\AppData\Roaming\Microsoft\Templat
es\Normal.dotm

表題 :

副題 :

作成者 : ishikawa

キーワード :

説明 :

作成日時 : 2016/10/07 10:11:00

変更回数 : 4

最終保存日時 : 2016/10/12 11:48:00

最終保存者 : ishikawa

編集時間 : 7 分

最終印刷日時 : 2016/10/15 22:28:00

最終印刷時のカウント

ページ数 : 2

単語数 : 2,821 (約)

文字数 : 16,080 (約)